

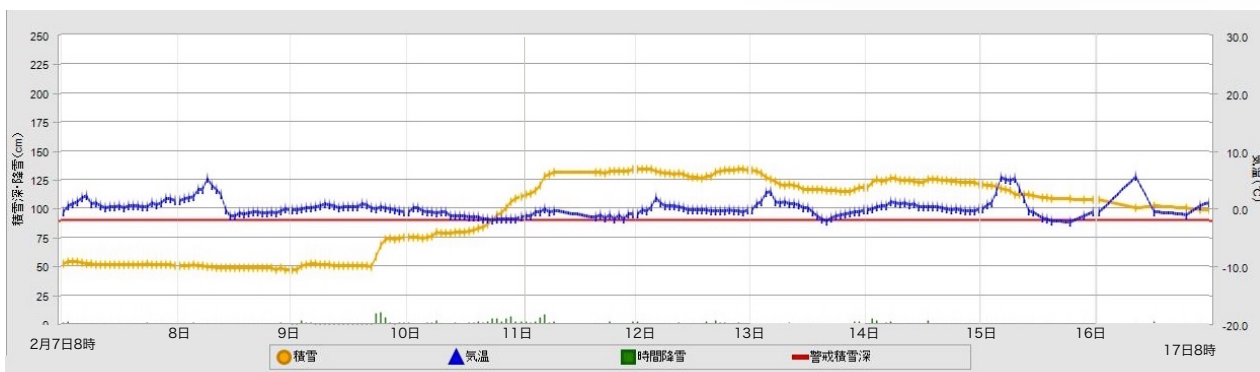
Yamakado News Letter



今季は暖冬かと思いきや…



除雪機で進入路を開ける浅井会長 14日9時頃



沓掛計測地（西浅井斎場）の積雪（ロードネット滋賀 <http://www.shiga-douro.jp/pc/> によるデータ合成）

楽舎周辺では1月中旬から積もり出した雪は一時は100cmを超えたものの、その後は徐々に減少して40～50cmほどで推移していました。しかし、2月10日からの降雪で一気に増え、楽舎周辺では160cmにもなりました。進入路も埋まり、県道からスノーシュー無しでは歩けない状態でしたが、除雪機によってなんとか長靴での歩行が可能となりました。しかし除雪後の両壁面が除雪機の雪排出能力の限界に迫っており、これ以上の積雪となると除雪もできない状態でした。

雪がど〜んと積もると保全作業はできませんが、その代わりにいろいろ保守作業が忙しくなります。進入路や駐車場の除雪作業はもちろん、楽舎の屋根から落ちた雪が積み上がってくると雨戸を圧迫する恐れもあり、適切な除雪が必要です。

湿原パトロールなどで何度も往復して踏み固めた雪道も、好天が続くと緩んできます。そうすると益々長靴では歩けず、スノーシューが必須になります。しかし、沢道では丸太橋があり、ゆるくなった雪が残った橋をスノーシューで渡るのは危険です。安全対策として予め除雪しておくことが望ましいです。

また、昨年から防獣ネットの設置範囲を増やしましたが、圧雪によるネットの破損や、雪解けとともに戻ってくるシカに対応するため、常にネットの状況やシカの出現状況を注視しておく必要があります。

1月後半から2月前半にかけての森の様子

吹雪いている間の森は視野を圧迫するほどの雪景色と寒々しい風の音ばかりです。一見するとすると生き物の気配を全く感じません。ところが吹雪がおさまったとたんに、避難していたヤマガラやシジュウカラがどこからともなく現れます。そして忙しそうに餌探しを始めます。木々も雪の中で冬芽をどんどん大きくさせて、来るべき春に備えています。



守護岩の積雪 2/13 12:30



楽舎屋根の積み上がった落雪を除雪 2/13



沢道丸太橋の除雪 2/15



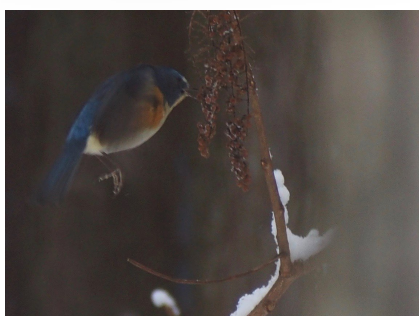
降雪がおさまり硬くなった雪上を移動するウサギの足跡 1/19



沢を飛び越えて横断するシカ親子と思われる足跡 1/19



雪が減り、シカ対策でネットを再設置するも、その後の降雪で再度埋まる 2/1



リョウブの実を啄むルリビタキ 1/26



枯れ木に虫を探すコゲラ 2/13



付属湿地も雪の下 2/14